

会 議 録

- 1 会議の名称 令和6年度第2回富士川町環境審議会
- 2 会議の時間 令和6年12月13日(金) 午後7時00分から午後8時30分まで
- 3 開催場所 富士川町役場 1階会議室
- 4 出席者数
 - (1) 委 員 9名(欠席者1名)
 - (2) 事務局 3名
 - (3) 支援業務受託者 3名
- 5 議題
 - (1) 富士川町地球温暖化対策実行計画(区域施策編)改定について
 - (2) その他
- 6 会議資料の名称 別添のとおり
- 7 発言の内容
 - 1 開会
 - 2 会長あいさつ
 - 3 議事
 - (1) 富士川町地球温暖化対策実行計画(区域施策編)改定について
 - ・前計画の検証について
 - 資料2に基づき説明

【委員】

資料2の「低い排出係数を用いて試算されていたため・・・」とあるが、具体的にどのくらいの数値なのか。具体的な数値がないと比較しようがないと思うが。

【事務局】

前計画策定時には、低い排出係数(0.384)で計算されており、直近の排出係数は0.434となっている。現状から考えた場合、前計画策定時に低い排出係数を採用していたと考えられる。

【委員】

係数が変わってしまうと、比較ができないのでは。

【事務局】

そのとおりであるが、電気の排出係数については、電気を供給する事業者側の課題であり、町の皆さまの取組みが進んでいなかったという訳ではない。数字だけを捉えるのではなく、町の皆さまの取組みを十分把握することが最も重要である。

【委員】

前計画の検証内容を見ていると、運輸部門の排出量が多くなっている。ハイブリッド車の導入も進んでいる中、なぜこのような結果になったのか。

【事務局】

前回計画策定時に、運輸部門の削減量を多めに試算したとと推測される。

【委員】

運輸部門の数値が上昇傾向にあるように見える。ハイブリッド車の導入が進み、温室効果ガスの排出量を減らしていると思うが、結果に反映されていないように見受けられる。車輦台数などの変化はあったのか。

【事務局】

車輦台数は、概ね当時見込まれた値と変わっていない。当時の試算として運転の仕方により排出量を下げていく方法を採用していた。また、運転の仕方については、値に十分反映されていないと考えられる。

・基本理念(案) について

資料4に基づき説明

【委員】

この中では5番がよい。1番だと「環境にやさしいまちから目指す・・・」となっており、「まちから目指す」だと意味合いが違う気がする。5番の「次世代につなぐ「環境のまち」」のほうがよい。

【委員】

内容的には、言っていることはどれも同じに感じる。

【事務局】

語呂や響きも大事である。あとは皆さまが活動される中で、富士川町はこういう町

であると説明するときに伝えやすくなるとよいだろうというところもある。

【委員】

「環境のまち」というのが分かりにくいと思う。「環境にやさしいまち」のほうが分かりやすいと思う。

【委員】

長くなるが、「次世代につなぐ「環境にやさしいまち」～ゼロカーボン富士川を目指して～」というのはいかがか。

【委員】

「まち」は漢字にしたほうが見た目もすっきりすると思う。

【委員】

今回決定した基本理念が計画書の 34 ページの基本理念に反映されるのか。

【事務局】

そのとおりである。

【会長】

基本理念については、「次世代につなぐ「環境の町」～ゼロカーボン富士川を目指して」とすることで、よろしいか。

【委員一同】

異議なし。

・第2期計画(案) について

【事務局】

5名の委員からご意見をいただいた。事務局で精査する中で、担当課との協議の関係上全て明確な回答はできないが、事務局内で協議した内容を回答する。

また、ご指摘の中で、説明の追加や、文言の修正等については、内容を確認して、基本的に反映させていただいた。

審議会場で議論していただいたほうがよいご意見やご提案を中心に、審議していただく流れとさせていただく。

【委員】

再エネ低炭素電源購入というのは、補助のことを指しているのか。

【委員】

再生可能エネルギーを使った低炭素電源への導入件数を指しているのか。

【事務局】

補助金や導入件数ではなく、ここでは普及啓発の目標件数を示している。

【委員】

計画書(案) 48 ページのシェアサイクルは、富士川町にあるのか。街中で利用できる家庭向けのシェアサイクルを想像していたが、どのようなものか。

【事務局】

町中であって町民が使えるようなものではなく、道の駅などに設置しているものである。

【委員】

道の駅にあるシェアサイクルは、スポーツ目的のものであり、省エネ関係の施策にはつながらないのでは。

【事務局】

なるべくエネルギーを使わないような移動手段として盛り込んだ。詳細については、担当課に改めて確認する。

【事務局】

中小水力発電のポテンシャルについては、5.65MWh となっている。中小水力発電については、設置に係る制約が多いため、より制約の少ない太陽光発電や太陽熱利用といったポテンシャル内容を計画書に掲載している。

【委員】

富士川町は山林が多く、そこを流れる川を使った発電は富士川町ならではのものだと思う。導入に関する制約は、ポテンシャルよりも後の話になるので、情報として掲載してほしい。

【事務局】

中小水力発電のポテンシャルについては、追記する。

【委員】

33 ページの将来像の図について、非常によくて分かりやすいが、絵に対して説明を加えたほうが分かりやすくなるのではないか。コメント入りのほうが、小中学校の教材など、他の場面で活用しやすいと思う。

【事務局】

コメントなどは整理しているので、図中に吹き出し絵を中心にコメントを入れる方向とさせていただく。

【委員】

森林環境譲与税は、町民の人たちが知らないのではないか。森林環境譲与税がどのように使われているか、流れが示されると町民の人たちにも伝わりやすくなるのではないか。特に、新しく建てられる中学校については、森林環境譲与税を使って木材を導入していくと思われるので、具体的な数値として表すことができるのではと思う。

【事務局】

学校の木材使用量については、新しく建てられる中学校の設計の検討が続いている状態である。指標の示し方については、担当課と協議する。

森林環境譲与税について、あまり周知されていないというご意見については、説明を追加する。

【委員】

宣言的に言っているのであれば意味がないと思う。これまでにどのくらい温室効果ガスが排出され、これからどのくらい削減しなければならないのかを示していくことが大切だと考える。

【委員】

数値の見直しや計画の進捗管理は、いつ、どのように進めていくのか。着実に計画どおりにできているかを確認することは重要な点で、計画を作ってそのままではよくない。

【事務局】

本計画は令和7年度から12年度までであり、進捗管理は毎年行っていく予定である。計画書50ページに記載のとおり、本審議会とは別の組織体があるので、そちらで進捗管理をしていく。

先ほどのごみの話に関連して、富士川町での1人当たりのごみ排出量は、令和3年度で814グラムであり、全国平均の890グラムを下回っている。現状の流れを考慮すると、これ以上削減する見込みが少ないため、廃棄物の面からではなく、エネルギー面から温室効果ガスを減らすことが効果的と考える。

【委員】

電気自動車よりも電気バイクのほうがより気軽に手に入れられる、高校生が通学でも使用できそうと考えたので、電気バイク購入補助制度について提案する。

【事務局】

電気自動車購入費補助制度については、今年度から始めた制度で、まだ周知されておらず、今後周知を進めていくことが求められている。電気自動車に加え電気バイクの補助制度についても今後検討する。

【委員】

3010 運動や子どもたちへの環境教育については、学校や保育園と直接やりとりして、実施してきたが、コロナ禍以降実施できていない。

過去には、小学2年生を対象にしたごみに関する環境教育に参加した方が、その当時の体験がきっかけとなり、ゴミ問題に興味を持ち、中学2年生で論文を書き、表彰されたこともある。子どもの頃の体験が非常に大きいことが分かる出来事である。

保育園児向けには、富士川下流で川のごみがどのくらいあるのかを見てもらう体験を1度実施したことがある。海に流れ着くごみの多くが内陸部からのごみであることを知ってもらうために実施していた。

【事務局】

環境教育については、皆さまが実際に取り組まれていることを計画書に反映したいと考える。可能な範囲で資料等のご提供をお願いする。

【委員】

環境教育は大切だと考える。県内の学校長を通して教員向けの環境教育の映画鑑賞会の実施を打診したこともある。最近では、県のプラスチックスマート連絡協議会を通じてその映画を広めたいということで、何度か実施している。

【事務局】

3010 運動のさらなる周知については、次の町広報誌に掲載する予定である。

【委員】

飲食店を見ても、コロナ禍以降、たくさん残している人を多く見受けるので周知していきたい。

【委員】

計画書 30 ページの森林吸収量の項目にある「森林が適正に管理され・・・」について、最近森林整備について芳しくない事例があったことを聞いた。そのため、少し表現を変えたほうがいいのではと意見を提出したが、それについてはどのような考えか。

【事務局】

「より適正に管理され・・・」の文言の修正を行う予定である。

【委員】

保安林を勝手に伐採している事例などを見たことがあったので、表現を少し考えてほしいと思った。

【委員】

地産地消について、富士川町では人口が減ってきており、農業生産者も減ってきている。推計でもこのまま人口が減り続けると予想される中で、果たして地産地消が実現できるのかに疑問を持っている。子どもの数も減っている中で、その中で学校給食での地元食材の使用量拡大は難しいのではないかと思う。

【事務局】

本計画では、市民農園の利用率を目標値としているため、人口が減った中でも測ることのできる数値目標となっている。また、学校給食の食材の使用量拡大の目標値については、学校給食の自給自足を上げる計画からの数値などを引用している。その中で、積極的に取り入れていくという記載があるので、この方針で進めるという認識である。

【委員】

農家が減っている中ではあるが、女性たちがボランティアでやっている事例があるが、そのようなことは含まれているか。

【事務局】

農業従事者が減っている中での取組みの一環として認識している。担い手の構図を変えていく必要があると感じている。

【委員】

排出量の考え方として、人口や出荷額などの活動量が減って排出量が削減したということでも、目標は達成したということになるのか。

【事務局】

要因はどうであれ、そのように評価する。実態として、人口や産業が減ることで排出量が減り、国が示す目標値を既に達成している自治体もある。

しかし、排出量という数値だけで単純に評価するのではなく、可能な限り理由を捉えながら排出量を評価していくことが大切である。

【委員】

昨今、電気代が高騰している中で、再エネ賦課金が一律に課されているが、何に使われているのか。再エネを推進する傍らで、賦課金という経済的な負担が出てきているので、どのようにバランスを取っていくべきか迷う部分だと感じる。

【事務局】

何に使われているかについては、すぐに事例が出てこないが、再エネ賦課金の問題は大きく、小売電気事業者なども苦労していると思う。

【委員】

ここまで話を伺ったなかで思ったことは、私たちが日常的に積み重ねていく努力が環境のためになるかということ、そう簡単にはいかないということである。どこかでは途方もない努力をしなければならないこともある。考え方をどのように持ったらよいのかが大切になってくる。

エネルギーなども含めて、非常に大きな観点から物事を捉える必要があり、今再生エネルギーを入れようとしても、電源側の面で容量が足りないという現実がある。そのため、自家消費を勧めている現実がある。その一方で、技術が進みコストが下がったことで少しずつ現実的になってくる。ものすごく大きな問題が解決しない限り、電気やエネルギーのことを解決することは難しいことが多い。

車についても、電気自動車は全個体電池ができるのかという非常に高度な課題が解決しないと、そこから先には行けない。そのような難しい現状がたくさんあり、その中で私たちはどういう考え方に基づいて温暖化防止を進めたらよいのかを考えなけ

ればならない。

私たちはすぐに歳をとってしまい、すぐに新しい世代が出てくるので、私たちが抱いた気持ちを持ち続けて、さらに次世代に向けて発展させていくことである。

数日前にテレビで、世界におけるマイクロプラスチック排出量の第2位が日本であることを目にした。以前、静岡県海水浴場で山梨県のスーパーの袋が大量に流されているのも目の当たりにしたこともある。

【委員】

以前、静岡県の清掃活動を行った際に、ペットボトルが大量に流れ着いていたのを目の当たりにした。その中に、山梨県のお茶のラベルのものもあった。

【委員】

いずれマイクロプラスチックの量が魚の量を上回るとも言われている。このような計画を作り、子どもたちやその親が見たときに、本当にやらなければならないことは何かが分かるような計画、次につながっていくようなものにしたいと考えている。排出量などを比較するときにも、その時々で基準も変わってくると思うので、数値をそのまま鵜呑みにするのではなく、本質を理解しないと論点がずれてくる。その辺を考えながらまとめていただきたい。

【事務局】

先ほどのプラスチック問題も含め、「考え方を計画書の中に記載する」ということは、対応していきたい。振り返ってみたときに、考え方が書いてあるのが計画だと思うので、それが全体としてしっかり対応できることが、よい計画につながると考える。

【委員】

町民をはじめとする様々な意見を取り入れることも大切だと思う。

【事務局】

委員の皆さまのご意見は、町の皆さまが日頃感じていることが反映されているように思う。これらのご意見をできる限り反映し、全体を包括した本質的な考え方を示したほうが良いと思うが、そのような捉え方でよろしいか。

これは、基本理念に吸収すべき内容と思うので、さらに書き込むような形としていく。エネルギーの話は、一般的に町の皆さまには分かりにくい内容であるため、理解が進みやすいように考え方の部分をより良く反映したいと思う。

【委員】

具体的な事例として、農業で「いのちのごはん富士川」という町の女性ボランティアが有機農業をやっているものがある。団体の考え方も含めて、富士川町でこういう取り組みが出てきていることに注目している。

【事務局】

町民の活動として模範的な行動があれば、どのような形なるかは分からないが、反映できるよう検討する。

(2) その他

【事務局】

今後のスケジュールについて、本日のご意見を反映した部分については、会長と事務局の間でやり取りをさせていただく。パブリックコメントについては、1月上・中旬から1箇月間ホームページ上で実施予定。パブリックコメントで寄せられた意見を反映するかについては、事務局で協議しながら進めていく。パブリックコメント終了後、会長から町長に諮問に対する答申を行う。

8 閉会